

14.10.15

国際女性教育会館
女性情報センター1989
3月
No. 102

はなわんちカーニバル

事務局：〒

津田尚美方 TEL

編集人：葛西ふう子：〒

二月二十四日 女の井戸端会議 成功！

——ミニでの発言の一節を紹介します——

男女差別、女ある事はまちがい、値打ちがない、こう事が天皇制とむすびづける。夫の前に歩きと頭を下げる事に「ソーツ」とする。どう感じ才を大切にした！家庭中の男女差別を三思おいかがり平等を重視する関係は生まれない。

自分が女では所が天皇はどう思つて、その話していい。教育現場で感じるのは天皇は差別の象徴だと。男の子が生まれる事とあります風潮。女は皇室では一時金をやり出される。せひく教皇が男女平等に。うるさく皇室があざと。男の子の状態が家族のもとへ帰らぬ。不公平と思つん」と思つ。父、母、子供（孫の人は男の子）の状態が家族のもとへ帰らぬ。女は娘家庭という印象を持つ。

夫婦の和などと家事は年老がうも天皇。うすも自分だけぬ。給料の安さ、夫婦の争いも夫の争い。夫金の少なさトレイ、「あはあん、あんたは神經痛に悩むも當仕事をつづる」天皇はあんたに説かれて不公平と思つん」と思つ。自分が自分に向直して生きぬく天皇制はよくなるね。

伊吹山に登るの？、まだ山がある？、どうぞ天皇制につけて譲ります。

天皇が生むから、伊吹山がある、どうぞ天皇制につけて譲ります。

天皇が死むから、伊吹山はない、どうぞ天皇制につけて譲ります。

五月三日、十四時、せのせのサテライト会議、教育花会館



2月24日には
二人の映画も放映された

山下少年物語



赤く坊の誕生日シーン。祖父「男の子ばい」「ありがとう。良う男の子を生んぐくれた」二のあたり「男の子」「男の子」というセリフがくり返される。夫「男の子を生んぐめてありがとう」という。祖父が夫人に「泰一」という名を付ける。と夫が「泰祐」と変える。いから祖父に産婦が床中で言う。「天皇様の一字をもうけました」。祖父「おそれ多く、ほんまうなじ裕の字を上につけんか」母「父親はこの子の父親、天皇様は日本のお父様」

祖父が山下少年を手邊にかけて育てる。両親と祖父母の間で育て方をめぐらケンカ。祖父は言つづける「この子はワシと天皇様の子供」。

天皇をかたまれば何と言えぬ。黄門の印籠と同じ力を持った天皇。神を印象付ける映画が24日に放映された。ニカラ！ スポーツと差別の話すがつた。ニカラニカラ。

1989年(平成元年)3月9日 [西日本新聞] のグループ、私達がお出で
ながさき3面 グッドライフ

ながさき3面 グッドライフ

ばってん・うーまんの会

メンセーン

女性から世の中を見る
と、納得できないことがあります。昔は女の天皇もいたのに、なぜ今は男だけか、学校ではなぜ男学生徒から先に出席を取りのか、なぜ男と同等に出世できないのか――。ばってん・うーまんたちは、こんな世の中に怒りをぶつけたいと思っています。

金丸元副総理の発言に



みられるやうに、政黨第一党の体質そのものが、男女差別を容認しているのが現実です。女性のシンクル化も進んでおり、女性を一人の人間として尊重する世の中にします。みなさん、家の中に閉じこもっていないで、外に出ましよう。元気な仲間を待っています。(ばってん・うーまんの会連絡係、津田尚美さん)

「女たちは天皇制が嫌いだ」「男子だけに皇位継承権があるのはおかしい」――員の

ばってん・うーまんの会員は元気はつらつ



許さないわよ『男女差別』

性の自立を考えるのが、会の設立趣旨で、今年のモットーは「差別は目につき次第、告発する」。月末に、金丸信一元副総理が、長崎市であつた参院選決起大会で「サッチャヤー(英首相)は男性を知っている、おだんながある。土井さん(社会委員長)にはおだんながねえじゃねえか、男を知らん」と発言したことに対する猛反発。「これは女性蔑視(ペッシャ)の発言で、結婚しない女性に対する差別発言だ」として、自民党県本部などに抗議した。

会が続けてきた大仕事の一つが「女のノート3年」の発行。「女性も目標や計画を持つ生きよう」と三年分の日記帳を作った。今年、四冊を四千部(一冊一千円)発行したが、ほぼ完売した。その益金で、毎回長崎市立中央公民館図書室に寄贈している「ばってん・うーまん文庫」も七百冊を超えた。

「もしも生まれ変わつても、また女に生まれたい、と思える世の中にしよう」と、会員たちは、女の連帯を呼びかけている。入会希望の女性は、津田尚美さん(20歳)。

人のうち、四割が男性で「やっぱり男たちも言ひたかったとね」と、ばってん・うーまんたちも納得した。

二月二十四日(大寒の日)に長崎市内で開催した「天皇制を語ろう――女の井戸端会議」では、天皇制への不満が出るわ

出る。もともと、女性の視点で天皇制を語り合おうと開いた会だったが、参加百五十

人が主婦中心となり、組織から

男女差別の撤廃を求め、女

「はみ出して」独自の活動をするようになつた。現在、会員は主婦、教師、OLなど二十人。月一回の例会では、「黙つていたら損」という感じで、口をはさむのが難しいくらい話の途切れ目がない。

福岡有職婦人の会が呼びかけってきたが、その後メンバーも増えていった。そこで、会員たちは、女の連帯を呼びかけている。入会希望の女性は、津田尚美さん(20歳)。

8 (24) 5076 || 連絡

下記の様な「ばつん・うーまん」の抗議文が掲載されました。

金丸元副総理の「女性差別発言に

ほつてん・うーまん

「抗議声明」で世論に訴え

男女差別の撤廃を求め、女性の自立を考えようと、福岡有職婦人の会の呼びかけてですが、その後メンバーが主婦中心となり、現在は独自に活動している。連絡係の津田尚美さん(西九)をはじめ、主婦

教師、会社員など全員は三十

いくつ状況にあることをきち

んと認識して、配偶者がいよ

うといまいと、女性を一人の

人間として尊重することを要

望します」

ここで「ばつん・うーま

ンの会」についての説明を一

言。会の設立は一九七三年。

た社会党を「権力を飲んだよう

ななり方では政治にならん」と批判したまでは良かった。

が、話はそこで收まらず、サ

ッチャイ英首相を引き合いに

で女の人生を終わらせる気

か」と怒りは爆発。「女も男

と同等に職業を持つべきで

す。姿は価値觀を植え付けて

は困る」と抗議して、内容を

変更させた。そして、今年

のモットーを「差別は目につけ

まっている」(津田さん)と

結婚しない女性に対する差別抗議文は、「こんな内容だつたつもりだった。しかし言

いたい放題」。この発言に猛烈と反発したのが、長崎市内の女性グループ「ばつん・うーまんの会」。これは女性蔑視(べつし)の発言で、

然と反発したのが、長崎市内の女性グループ「ばつん・うーまんの会」。これは女性蔑視(べつし)の発言で、

女性蔑視(べつし)の発言で、

考えて、抗議したことを知らせる声明文を、女性問題評論家からAP、ロイター通信をはじめとするマスコミ関係など、思いつく限り六十通近くを送った。

土井さんにはお旦那がねえじゃねえか……

「サッチャー(英首相)は男性を知っている。お旦那(だんな)がある。土井さん(社会委員長)にお旦那がねえじゃねえか、男差知らん」と。土井さんはお旦那から始まつた。今年一月末、長崎市内で開かれた自民党の参院選決起大会でのこと。講演した金丸信・元副総理が、先の税制国会で「牛歩戦術」をとった。自民党の体質そのものの



男女差別と闘い続ける「ばつん・うーまん」たち

「女子差別撤廃条約に批准した国の元副総理の発言としては許されないものであり(略)」このよくな発言が、笑的場面で紹介されるということが、笑い話の中になされた。それが公

共に、金丸信・元副総理が、先の税制国会で「牛歩戦術」をとった。自民党の体質そのものの

「女子差別撤廃条約に批准した国の元副総理の発言としては許されないものであり(略)」このよくな発言が、笑

い話の中になされた。それが公

共に、金丸信・元副総理が、先の税制国会で「牛歩戦術」をとった。自民党の体質そのもの

その反応は予想以上に大きかった。津田さんの家の留守番電話には、長崎市内の女性などから「頑張って下さい」と激励が数件。大阪からも賛同する封書が届き、東京の市川房枝記念館などからも問い合わせがありました。

「もし生まれ変わつても、また女に生まれたい、と思える世の中にしよう」――「ばつん・うーまん」たちの闘いは続く。

昨年、地元のある建設会社の

コマーシャルが会員の意識を

変えた。のどかな家庭風景の中、男子は「僕スポーツ選手になりたい」と話すが、女子は「私、お嫁さん」。

「なんで女は、いままでお嫁さんなのか」二十三歳

の夫をはじめ、主婦

中心となり、現在は独自に活

動している。連絡係の津田尚

美さん(西九)をはじめ、主婦

長崎女性問題研究会「ばつてん・うーさんの会」が金丸元副総理と自民党長崎県連に郵送した抗議と要望のアピール文が、会から届いた。

記憶に新しいニュース、といつても、口角泡を飛ばして天下国家を論じることをしては、「女・子ども」をサブヒューマンとする人々には、例によつてジョークのネタでしかないかもしれません。問題はまさにそこにあるのだ。

少し長い引用になるが、この発言に対する「ばつてん・うーさんの会」の抗議文を紹介しよう。

「……これは女性差別の発言であり、結婚しない女性に対する差別発言です。私達、ばつてん・うーさんの会」は、この発言に抗議します。なぜなら女子差別撤廃条約に批准した國の元副総理の発言

「体質」は、政党第一党である自民党に限らない。それどころか、社会全般、残念ながらメディアの中にも、さらに残念なことに、同性の中にも時としてあるバイアスであるだろう。

女性は演説の内容ではなくネクタイの柄を見ていることが多いといふ。中曾根前総理のネクタイの柄発言も、渡辺政調会長の黒人は経済観念が乏しいといふ。アッケラカのカ一発言も、同根の病から発する体質であり症状であるだろ

う。さきのネクタイ発言等にしても、海の向こうで抗議の声があがつてから、ようやくこの国でもとうとう現状を考えると、報道する側の何割かもまた、同じ体質だと言わざるを得ないのだが、このテの同根の病には、「お大事に！」とは言えない。

メーディア時評●落合 恵子

同根の病

この起こりは一月二五日、長崎で開かれた自民党の集会、この夏に行われる参院選の立候補者を支援する決起大会（なんと時代がかつた氣恥ずかしい言葉だが、メインストリームもそれに反対する側もよく使つてゐる）でのこと。

としては許されないものであり、（中略）このような発言が、笑い話のなかになされ、それが公的な場で紹介されるということは、自分が容認していくことを暴露しているようなもので、それが政党第一党であるだけに私たちの大変なシヨックと憤りを覚えます。（中略）配偶者がいようと、女性を一人の人間として尊重することを要望します」

金丸元副総理が、社会党の土井とか子委員長とイギリス。サッチャー首相を比較して、次のような主旨の発言をした。「サッチャーは男性を知つてい

る、おだんながある、土井さんはおだんながねえじやねえか、男は知らん、と笑い話になつた」云々（一月二六日付「朝日新聞」）。

そして、差別発言であると抗議

もつとも、こういった差別意識の持ち主や、そのグルーピーにとつて、差別発言はあくまでもちよつとした「失言」であり、彼らにとって失言とは、たまたま運悪くおおやけになつてしまつた反省も熟考の余地もない、ゆるぎない「本音」でしかないのかもしれません。

中国、国営新華社通信が報じてゐる「日本の侵略戦争発動を竹下首相再び否認」のニュースも、また。

上記の記事は、今「朝日ジャーナル」に連載されてゐる落合恵子さんの「メーディア時評」の3月10日付のものです。

私は出でた素朴な抗議があちこちで取り上げられてるのは力強くうれしいです。そして、声を上げづけやすくて大切だなと感じています。

1989.3.10

朝日ジャーナル